

Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

目 次

〈理事会報告 (2017 年 11 月 4 日)〉

■新体制の承認

I 推薦理事の選任、事務局体制・各種委員会体制・研究奨励賞審査委員会の承認、顧問・常任理事および監査の選任について

■審議事項

I 各種委員会の活動について

II 第 28 回大会 (岡山大会) について

III 次期大会について

IV 30 周年記念事業について

V 学生会員の年会費の値下げについて

VI 理事への旅費の支払いについて

VII その他

■報告事項

VIII 事務局報告

IX その他

〈研究集会のお知らせ〉

〈事務局からのお知らせ〉

理事会報告 (2017 年 11 月 4 日)

定例理事会が 11 月 4 日 (土) 10 時 00 分から 13 時 30 分まで、お茶の水女子大学文教育学部 1 号館第一会議室にて開催されました。事務局 3 名を含む 26 名 (うち理事 25 名) の参加がありました。

■新体制の承認

I 推薦理事の選任、事務局体制・各種委員会体制・研究奨励賞審査委員会の承認、顧問・常任理事および監査の選任について

松下代表理事より、7名の推薦理事の選任、事務局体制・各種委員会体制の承認、常任理事および監査の選任について議案が提出され、いずれも承認された。また、2018年1月8日に顧問の選任についての議案が提出され、メール審議の結果、承認された。その結果、新体制は次のようになった。

推薦理事 *会則第4章第11条：推薦による者 若干名

藤川聡（北海道教育大学旭川校）、上地完治（琉球大学）、柴田好章（名古屋大学）、吉富芳正（明星大学）、高橋亜希子（南山大学）、二宮衆一（和歌山大学）、香川大学教育学部附属高松中学校

事務局体制 *会則第4章第11条：幹事 若干名（うち事務局長1名）

事務局長 二宮衆一（和歌山大学）

幹事 富士原紀絵（お茶の水女子大学）、木村裕（滋賀県立大学）

紀要編集委員会

委員長 安藤輝次（関西大学）

副委員長 山口満（筑波大学名誉教授）、佐藤真（関西学院大学）

委員 磯田文雄（名古屋大学）、八尾坂修（開智国際大学）、藤川聡（北海道教育大学旭川校）、上地完治（琉球大学）

研究委員会

委員長 子安潤（中部大学）

副委員長 澤田稔（上智大学）

委員 石井英真（京都大学）、田中統治（放送大学）、的場正美（東海学園大学）、吉富芳正（明星大学）、高橋亜希子（南山大学）

広報・若手育成委員会

委員長 村川雅弘（甲南女子大学）

副委員長 田村知子（岐阜大学）

委員 倉本哲男（愛知教育大学）、小柳和喜雄（奈良教育大学）、田中耕治（佛教大学）、柴田好章（名古屋大学）、香川大学教育学部附属高松中学校

国際交流委員会

委員長 近藤孝弘（早稲田大学）

副委員長 西岡加名恵（京都大学）

委員 浅沼茂（立正大学）、工藤文三（大阪体育大学）、中野和光（美作大学）

研究奨励賞審査委員会

*カリキュラム学会研究奨励賞規定：当該年の紀要編集委員会を含む10名以内で構成する（○が紀要編集委員）

委員長 ○安藤輝次

副委員長 ○山口満、○佐藤真

委員 ○磯田文雄、○八尾坂修、○藤川聡、○上地完治、橋本美保（東京学芸大学）、根津朋実（筑波大学）

30周年記念事業準備委員会

委員長 長尾彰夫（プール学院大学）

※ 事務局からは木村裕（滋賀県立大学）

顧問、常任理事

顧問 安彦忠彦（神奈川大学）、水原克敏（早稲田大学）

常任理事 松下佳代（代表理事）、安藤輝次（紀要編集委員長）、山口満（紀要編集副委員長）、佐藤真（同左）、子安潤（研究委員長）、澤田稔（研究副委員長）、村川雅弘（広報・若手育成委員長）、田村知子（広報・若手育成副委員長）、近藤孝弘（国際交流委員長）、西岡加名恵（国際交流副委員長）

監査

関根明伸（国士舘大学）、上野正道（大東文化大学）

■審議事項

I 各種委員会の活動について

1. 紀要編集委員会（研究奨励賞審査委員会含む）

安藤委員長より、資料に基づき報告ならびに審議事項の提案があった。『カリキュラム研究』第27号の編集について「海外教育情報の割り当て頁数について」「紀要投稿・査読等のデジタル化について」「理事会での依頼事項について」のそれぞれに関して、提案の通りに進めることとなった。その際、「研究集会報告」については昨年度の研究・広報委員会が、「秋のセミナー」については今年度の広報・若手育成委員会が担当することが確認された。また、「海外カリキュラム研究情報」については、紀要編集委員会から国際交流委員会に依頼して執筆を進めることが確認された。

2. 国際交流委員会

西岡副委員長より、資料に基づき報告ならびに審議事項の提案があった。まず、大会の課題研究のテーマに関する提案と内容の説明がなされた。次に、紀要の「海外カリキュラム研究情報」について、提案の通り進めることが承認されるとともに、ミカエル・ウリエンス教授について、中野理事ならびに小柳理事より紹介があった。

マイケル・ヤング教授の原稿、ならびに今後の同様の事例に関して、翻訳のみではなく原文も会員が読めるようにすることはできないかどうか、原文も読めるようにするべきではないかという提案がなされた。審議の結果、今後の「海外カリキュラム研究情報」の原稿については、原稿執筆ならびに翻訳を依頼する場合には、まず原稿執筆者および翻訳者に原文と訳文の両方を掲載しても良いかどうかの了承を取ったうえで、原文・訳文の両方を掲載するかたちで進めることとなった。また、ヤング教授の原稿の原文掲載については、中野理事からヤング教授ならびに翻訳者に、原文掲載の承諾を取っていただいた上で、その結果に基づいて進めることとなった。その際、200ユーロ相当の謝金もヤング教授にお支払いすることとなった。

また、原稿執筆者への謝金に関する過去の対応方法をふまえて、「執筆者には 200 ユーロ」を謝金として支払うこととなった。また、翻訳者（会員）への謝金については、「翻訳者として氏名が出る場合には翻訳の業績にすることが可能となるため謝金は出さない」ことを基本とすることになった。

3. 研究委員会

子安委員長より、資料に基づき報告ならびに審議事項の提案があった。課題研究のテーマに関して、「教員養成のマニュアル化」ならびにそれに対抗するかたちで「豊かな多様性を持った学校現場、教育実践をいかにして守るか」、「(教職大学院における) 教員養成・カリキュラム・教科教育のスタンダード化」をどう見るか、というテーマ案が提案された。

4. 広報・若手育成委員会

村川委員長より、口頭で報告ならびに審議事項の提案があった。学会員の増加ならびに力量形成をめざした取り組みを進めることが同委員会の活動の主な役割であることが確認されるとともに、その役割を果たすために、学校現場への広報、および、若手会員の加入促進と育成に関する取り組みが重要であると考えられている旨が報告された。

「秋のセミナー」については、若手研究者ならびに学校教員による発表を行っていただくかたちで進める旨が確認された。また、大会時の「課題研究」については、若手の積極的な登用を行っていくことが確認された。

若手研究者の「人材バンク」的なもの（誰が、カリキュラムに関するどのような業績を持っているのかが分かるようなもの）の整備を行ってみてはどうかという提案がなされた。この点については、学会ホームページにある「学会員専用ページ」に、希望する学会員が自分で自身の情報を発信できるようなページを整備し、希望する学会員が自主的に情報登録を行うというかたちにしてはどうかという提案がなされた。

II 第 28 回大会（岡山大会）について

1. 大会収支報告書

担当者欠席のため、次回理事会において検討することとなった。

2. 『教育学研究』大会報告案の確認

下に示した資料に基づき、提案があった。資料の内容を確認したうえで、加筆修正を行うべき事項があれば、事務局宛にメールで提案を行うこととなった。

日本カリキュラム学会第 28 回大会報告

日本カリキュラム学会第 28 回大会は、2017 年 6 月 24 日～25 日に岡山大学教育学部を会場にして開催された。参加者は 250 名を越え、充実した大会となった。

自由研究発表では、13の分科会が設けられ、54件の発表があった。各分科会3～5件の発表となり、どの分科会も熱心な議論が展開された。

課題研究は4つのテーマが取り上げられた。課題研究Ⅰは、「カリキュラム改善のためのカリキュラム評価」（コーディネーター：村川雅弘・藤川聡・西岡加名恵、司会：村川雅弘・藤川聡、指定討論者：田村知子）をテーマに、根津朋実、原田信之、岡田さつきから提案がなされた。新学習指導要領でカリキュラム・マネジメントが推奨されていることをふまえて、カリキュラム改善につながるカリキュラム評価の在り方について、理論的・実践的な蓄積を踏まえつつ、今後の展望について意見交換がなされた。

課題研究Ⅱは「今日のカリキュラム改革と公教育のあり方」（コーディネーター/司会：中野和光・的場正美）をテーマに、矢野裕俊、志村喬、吉田成章から提案があった。グローバリゼーションの時代において、人々の思想の自由、教育の自由、学問の自由を保障する民主主義社会にふさわしい公教育のあり方について、米国、英国、EUで現在起こっているカリキュラム改革についての報告をもとに深い討論がなされた。

課題研究Ⅲでは、「現代日本の教育課程政策における政治・行政・経営をめぐる諸課題（その3）—学校の教育課程経営とそれに関わる地方教育行政を中心に—」（コーディネーター：小泉祥一・石田有記、司会：磯田文雄）をテーマに、小泉祥一、石田有記、小倉貴志、菊地真貴子から提案があった。今回は、学校における教育課程経営過程に焦点を絞り、学校における教育課程経営のあり方、それを教育課程行政がどのように支えるのかについて、そのための条件や課題などを中心に検討がなされた。

課題研究Ⅳでは、「批判的教育学(クリティカル・エデュケーション)の課題と展望—新学習指導要領の臨界点(クリティカル・ポイント)—」（司会：長尾彰夫・浅沼茂、指定討論者：上地完治）をテーマに、澤田稔、米村まろか、田中統治から提案があった。日本で、今年度以降対応を迫られる喫緊の課題としての新学習指導要領に関して、批判的教育学の研究成果に基づいて論評し、新学習指導要領が孕む諸問題を具体的に明らかにしたうえで、その問題解決の方向性について深い議論がなされた。

また、公開シンポジウムでは「新学習指導要領は各学校の教育課程をどう変えるのか—学校における教育課程編成の行方—」（コーディネーター/司会：住野好久、指定討論者：山下陽子）をテーマに、工藤文三、池野範男、橘慎二郎、徳山順子から提案がなされた。学習指導要領をふまえ、各学校の教育課程編成はどう行なわれるべきか、その際にどのような教育課程に関する理解が必要か、どのような教育課程編成の際の検討事項があるか、学校教育課程の検討過程にカリキュラム研究はどの程度貢献できるのか等について、研究者、学校、教育行政等の立場から話題提供していただき、フロアの参加者とともに熱い議論が展開された。

(岡山大学大学院教育学研究科：住野好久、桑原敏典)

Ⅲ 次期大会について

大会校からの依頼により、松下代表理事より、大会日程（2018年6月29日（金）に理事会、6月30日（土）および7月1日（日）に大会を行う）についての報告があった。また、課題研究のテーマについて関連する委員会からの提案に基づいて審議が行われ、以下のテ

マで進めていくこととなった。

課題研究Ⅰ：「カリキュラムの評価をめぐる研究」（タイトルについては要検討）

課題研究Ⅱ：「資質・能力と『見方・考え方』の教育の検討」に関連するもので1つ

課題研究Ⅲ：「学校現場との協働に基づくカリキュラム研究をどう進めるか」

課題研究Ⅳ：「いま改めて多文化主義を考える」

今後、3月の理事会において最終決定を行うことをめざし、登壇者への内諾を取ることも含めて、それぞれの委員会において必要な取り組みを進めていくこととなった。

IV 30周年記念事業について

長尾理事より、30周年記念出版事業（『現代カリキュラム研究の動向と展望（仮）』）について、口頭で進捗状況の報告があった。また、田村理事より、口頭で今後のスケジュールについての報告があった。

V 学生会員の年会費の値下げについて

松下代表理事より、資料に基づき学生会員の年会費を値下げに関する審議事項の提案があり、承認された。今後、2018年の総会に諮り、「日本カリキュラム学会会則」第8条を改正し、2019年度より値下げを実行するかたちで進めることとなった。

VI 理事への旅費の支払いについて

二宮事務局長より、資料に基づき審議事項の提案があった。審議の結果、旅費計算上の出発地は居住地又は勤務地となること、旅費の申請には領収書が必要であること（ただし、会場場所から近距離のものについては経路を示せば領収書は不要）が確認された。さらに、実際の出発地が居住地又は勤務地以外の場合についても、実際の経路分の領収書を提出いただいたうえで、居住地又は勤務地から会場場所までで計算された旅費を支給することとなった。また、宿泊費については、13,000円を上限とし、実費を支払うこととなった。なお、登壇者等、理事以外の方に対する旅費については、別に決められた申し合わせ「登壇者への旅費・謝金・執筆料の支払いについて（2016年7月1日）」に基づいて支給することが確認された。同資料については、今回の理事会終了後に改めて理事の中で共有することとなった。

なお、同申し合わせに関して、「ただし、発表要旨を転載する場合については、執筆料は支払わない」という一文を加筆することとなった。

VII その他

*次回理事会

日時：2018年3月18日（日） 10:00～13:00

※午後には、30周年記念事業の編集会議、ならびに研究集会を行う（下の案内をご覧ください）。

会場：お茶の水女子大学 文教育学部 1号館第一会議室

■報告事項

VIII 事務局報告（後掲の「事務局からのお知らせ」を参照）

1. 会員現況報告
2. 寄贈図書等一覧
3. 会計途中報告

IX その他

特になし

研究集会のお知らせ

テーマ：

高校における探究科目の導入と課題

趣旨：

2018年3月に高校学習指導要領の答申が発表され「考え判断する教育」への転換の一環として、「理数探究」「日本史探究」「世界史探究」「総合的な探究の時間」など、探究をキーワードとした科目が導入される。それらの科目をカリキュラムにどう位置づけるのか、各探究科目の内容や指導方法、生徒に意味ある探究学習は何かなど、課題が山積している。導入に向けての課題を整理し、探究科目に関する考え方や、実施している高校での実践内容・工夫・課題を聞きながら、カリキュラム創造の方向を考え合うことを目的に研究会を開催する。

日時： 2018年3月18日（日）14時~17時（受付 13時30分~）

場所： お茶の水女子大学 共通講義棟 1号館 301室

報告者：

石川 久美氏（名古屋大学教育学部附属中・高等学校）

「SSH 課題研究を通して他者と共同して探究し続ける生徒を育てる」

坂井 俊樹氏（開智国際大学教育学部）

「『歴史総合』の検討を中心にして（仮）」

玉谷 直子氏（お茶の水女子大学附属高校）

「SGH における探究活動」

林 尚子氏 (和光学園高校)

「選択科目『農と地域』における生徒の探究と体験 (仮)」

趣旨説明：

高橋 亜希子 (南山大学)

司会：

子安 潤 (中部大学)

事務局からのお知らせ

1. 会員現況報告 (2017年10月27日時点)

■会員総数 720名 (一般会員631名、学生会員81名、団体会員8件)

※連絡先不明者2名、会員一時資格停止者39名を含む。

【内訳】

新規入会者：12名、退会者：1名、一時停止資格者：39名、連絡先不明者：2名

注1 前は674名 (一般会員596名、学生会員70名、団体会員8件)

※連絡先不明者8名、会員一時資格停止者36名を含む。

注2 2016年度内 新入会員数は44名 (一般：30名、学生：13名、団体：1団体)

■会費納入率 (2017年10月25日時点)

2016年度：完納622名 未納24名 計646名 96.2%

2017年度：完納525名 未納156名 計681名 77.0%

※連絡先不明者2名含む、会員一時資格停止者39名除く。

■新規入会者 (2017年6月19日～10月25日) 12名

	入会年月日	氏名	所属	区分	推薦者
1	2017/6/19	中西 修一朗	※所属非公開希望	学生会員	事務局
2	2017/6/21	安井 茂喜	プール学院大学	一般会員	石原 陽子
3	2017/6/29	加藤 大貴	東京大学	一般会員	事務局
4	2017/7/1	徳島 祐彌	※所属非公開希望	学生会員	石井 英真
5	2017/7/5	福田 博人	岡山理科大学	一般会員	事務局
6	2017/7/19	鈴木 正行	※所属非公開希望	一般会員	事務局
7	2017/8/14	山下 大喜	名古屋大学大学院 教育発達科学研究科	学生会員	久野 弘章
8	2017/8/24	井上 榮子	※所属非公開希望	一般会員	木村 松子
9	2017/8/25	梶原 正史	※所属非公開希望	学生会員	大野 裕己 (滋賀大学教授)
10	2017/9/11	時津 啓	広島文化学園大学	一般会員	事務局
11	2017/9/20	根本 淳子	愛媛大学	一般会員	事務局
12	2017/9/28	清永 奈穂	※所属非公開希望	学生会員	事務局

■退会者（2017年6月19日～10月25日）1名

	退会日	氏名	所属	区分
1	2017/7/21	吉永 早苗	岡山県立大学	一般会員

2. 寄贈図書一覧（2017年5月27日～2017年11月1日到着分）

	著者名	タイトル	出版社等	発行日	受領日
1	山住勝広(著)	拡張する学校—協働学習の活動理論—	東京大学出版会	2017/6/30	2017/6/29
2	ハンス・ユルゲン・パンデル(著)、原田信之(監訳)、宇都宮明子(訳)	PISA後のドイツ歴史教授学	デザインエッグ社	2017/5/15	2017/7/3
3	ジョン・ハッティ(著)、原田信之(訳者代表)、宇都宮明子、天谷祐子、曾我幸代、高旗浩志、中西良文、樋田光代、サルバシオン有紀(訳)	学習に何が最も効果的か—メタ分析による学習の可視化:教師編—	あいり出版	2017/6/1	2017/7/3
4	キャサリン・キャンプ・メイヒュー、アンナ・キャンプ・エドワーズ(著)、小柳正司(監訳)	デューイ・スクーラーシカゴ大学実験学校:1896年～1903年—	あいり出版	2017/7/1	2017/7/13
5	田中耕治(著)	教育評価研究の回顧と展望	日本標準	2017/7/30	2017/7/31
6	吉富芳正(編集)	「社会に開かれた教育課程」と新しい学校づくり	ぎょうせい	2017/8/10	2017/10/3
7	吉富芳正(編集)	「深く学ぶ」子供を育てる学級づくり・授業づくり	ぎょうせい	2017/8/10	2017/10/3
8	吉富芳正(編集)	新教育課程とこれからの研究・研修	ぎょうせい	2017/8/10	2017/10/3
9	岐阜市立長良小学校(企画・編集協力)、山住勝広(編著)	子どもの側に立つ学校	北大路書房	2017/10/20	2017/10/25

3. 会計途中報告（2017年4月1日～2017年9月30日）

収入の部

項目	予算額(円)	実績(円)
学会年会費	5,000,000	4,110,000
入会金	60,000	70,000
学会誌代・雑収入・利子等	40,000	66,017
第28回大会収入(除く補助費)	1,400,000	0
寄付	0	0
前年度繰越金	7,421,874	7,421,874
合計	13,921,874	11,667,891

支出の部

項目	予算額(円)	実績(円)
第28回大会補助費	650,000	650,000
第28回大会支出(除く補助費)	1,400,000	0
第27号紀要刊行費(含む発送費)	700,000	280,800
学会研究奨励賞費	0	0
会合費(含む交通費)	800,000	10,051
事務局経費	150,000	10,260
事務局外部委託費	1,600,000	1,254,218
ホームページ運用費	250,000	64,800
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	50,000
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	10,000
各種委員会経費		
紀要編集委員会	100,000	0
国際交流委員会	100,000	0
研究・広報委員会	600,000	147,075
研究奨励賞審査委員会	100,000	0
(小計)	900,000	147,075
30周年記念事業準備費	400,000	0
理事・代表理事選挙経費	27,675	335,667
予備費	200,000	0
次年度繰越金	6,784,199	8,855,020
合計	13,921,874	11,667,891

4. 平成 29 年度 (2017 年度) 分会費納入のお願い

今年度分の年会費が未納の会員の方は、納入をお願いします。2017 年 10 月 25 日時点での 2017 年度会費の納入率は 77.0%です。納入促進に、会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく (株) 国際文献社内・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

(年会費：一般 8,000 円、学生 5,000 円、団体 10,000 円)

【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター (株) 国際文献社内

日本カリキュラム学会会員窓口

Tel : 03-5389-6213 Fax : 03-3368-2822

E-mail : jscs-post@bunken.co.jp

【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】

〒640-8510

和歌山市栄谷 9 3 0 和歌山大学教育学部 二宮衆一気付

日本カリキュラム学会事務局

E-mail : jscs@nifty.com

【 学会ホームページ 】

URL : <http://jscs.b.la9.jp/>